

令和5年度 第1回宇治市早期療育ネットワーク会議 会議録（要旨）

I 会議の概要

- 1 件名 令和5年度第1回宇治市早期療育ネットワーク会議
- 2 日時 令和5年6月30日（金）14時30分～16時10分
- 3 場所 宇治市役所 庁舎8階 大会議室
- 4 出席者
委員 服部委員長（京都府立大学） 小山委員（宇治久世医師会小児科医師）
海老原委員（宇治福祉園） 大野委員（かおり之園）
亀口委員（NPO法人アジュール舎） 荒田委員（あゆみ園）
中西委員（こども発達支援センター） 大隅委員（宇治児童相談所）
神原委員（山城北保健所） 岡野委員（学校教育課）
富治林委員（障害福祉課） 川崎委員（こども福祉課）
松井委員（保育支援課）

事務局 波戸瀬（福祉こども部長） 柏木（福祉こども部副部長）
栗田（保健推進課長） 平（保健推進課副課長）
発達支援係（橋本、神崎、岡田、春田、小倉、岡）
- 5 欠席 なし
- 6 傍聴 2名（一般 1名、報道関係 1名）
- 7 議事 (1) 委員長選出
(2) 令和4年度の活動報告
(3) 就学前の早期療育の現状
(4) 各機関の早期療育にかかわる取り組み報告
(5) 今年度の活動計画

II 会議結果・議事要旨

<開会あいさつ（福祉こども部部長）>

- ・新型コロナウイルスは 5 類分類となったが、引き続き感染症対策についてご協力をお願いしたい。
- ・乳幼児期は人の育ちの中で大変重要な時期と考えている。乳幼児教育・保育支援センターの準備室を開設した。乳幼児教育・保育の一層の充実を目指している。

<委員の自己紹介>

名簿順に委員の自己紹介を行った。

<事務局の自己紹介>

事務局の自己紹介を行った。

(1) 委員長選出

委員からの推薦、賛成多数により、服部委員を委員長に選出した。
委員長職務代理は服部委員長より、小山委員が指名された。

(2) 令和 4 年度の活動報告

事務局より資料①について報告を行った。

(3) 就学前の早期療育の現状

事務局より資料②-1、②-2、③について報告を行った。

<質疑応答>

委員：資料②-2 の中央部、療育申請状況について、令和 5 年 4 月入園に 84 人申請のうち 4 名辞退となっているのは、どういった経過での辞退なのか聞きたい。
事務局：4 名のうち 3 名は、4 園のいずれかへの決定をお伝えした時点で、仕事の都合がつかないなどの理由で辞退され、フォレストキッズを希望された。その他 1 名は保護者の転勤が決まったため転出された。

(4) 各機関の早期療育にかかわる取り組み報告

資料④に沿って各委員より報告があった。

- ・小児科分野…小児科医会では子育てにおけるインターネットや SNS 等メディアとの付き合い方を保護者に伝えていくことの重要性が指摘されている。読み聞かせの意義についても、もう一度深めていくことが必要と考えている。
- ・宇治福祉園…定員について、昨年度は 55 名だったのを今年度は 47 名に減らし

た。出席率が高くなっているために一日の平均利用人数が規定数を超えてしまう、職員への負担軽減、週2回の療育機会の確保といった理由から減らすこととなった。放課後等デイサービス事業につなぐ中で、学校との連携が増えている。コロナ禍で個別の保護者対応をしていたが、保護者からも要望があり、少しずつグループでの対応も復活してきている。

- ・かおり之園…保護者からの要望があり、療育への保護者参観を再開している。昨年度は放課後等デイサービス開始5年目ということで、5年生が5名だった。発達検査の活用について、就学前は新版K式発達検査を使用することが多いが、小学生以上にはWISCを活用することがある。昨年度はWISC-IVを使用していたが、今年度はWISC-Vに更新する。保護者向けに実施しているペアレントトレーニングはご家庭の状況に合わせて行うことが重要と考えている。保護者のストレス度合いを数値化できるツールも使いながら実施していこうと考えている。
- ・ころぼっくる…2022年度から開所曜日を変更している。年長児の保護者から就学についての話をグループの中で取り入れてほしいという要望があった。保育所等訪問支援事業は拡大する方針で取り組んでいる。
- ・あゆみ園…職員の確保の難しさから、定員を少し減らすこととなった。昨年度は保護者支援の難しさについて感じるが多かった。保護者に伝わりやすい伝え方をいろいろと工夫はしたが、今年度も課題と考えている。コロナ禍で個別の対応が多かったが、保護者の希望もありグループ懇談も取り入れている。しかし、感染対策はゆるめずに継続したままグループ懇談を行っている。放課後等デイサービス事業については、来年度から高等部部門を開始するにあたって今年度検討を重ねたいと考えている。課題としては、先ほどの人材確保の点もあるが、保護者対応の難しさもあるので、職員の力量も求められるところである。
- ・すてっぷセンター…児童発達支援事業について、親子で通える条件の方が少なかったため、今年度は例年より少ない人数でのスタートとなった。並行通園の年長児については宇治市からもたくさんご紹介いただいている。現在3クラスだが、来年度は4クラス20名の定員での受け入れを予定しているので、昨年度より早い段階で保護者へ案内していただけるように準備したいと考えている。コロナ対策は、当センターは重症心身障害のお子さんもいらっしゃるの感染対策は基本的に継続している。保育所等訪問支援事業については

学校によって受け入れていただきにくいことがある。職員からの説明でご理解いただけることがある。

- ・ 宇治児童相談所…虐待だけでなくあらゆる相談に応じている。検討課題に挙げている中で、発達検査を実施した場合の書面による情報提供は継続している。特別児童扶養手当の診断について、児童相談所では常勤の医師がいるわけではないので、できる限り地域のかかりつけ医で対応していただきたいと考えている。引き続きご協力いただきたいと考えている。
- ・ 山城北保健所…発達支援クリニックは継続して実施しているが、予約が少ない場合には事例検討会や勉強会を開催したいと考えている。医療的ケア児について、災害時の避難計画を立てられるよう、市町村と一緒に考えていきたい。
- ・ 学校教育課…令和 5 年度就学予定児の教育相談が 241 件あり、教育相談を受けられるケースが増えている。今年度の検討課題は、乳幼児教育・保育支援センター準備室が立ち上がったので、準備室と連携をしながら今後の検討を進めていくことである。
- ・ 障害福祉課…サービスの提供実績について、資料のとおり年々増加傾向にある。特に、放課後等デイサービスについては、令和 3 年度末は事業所数を 25 か所把握していたが、令和 4 年度末には 28 か所と増加している。放課後等デイサービスの事業所ごとの空き状況は保護者からお問い合わせいただくことも多いが、なかなかリアルタイムで把握することが難しい現状がある。情報提供の仕組みづくりは引き続き検討していきたい。
- ・ こども福祉課…育成学級において、医療的ケアの必要な児童の受け入れが今年度 1 名あり、それに伴って看護師を 1 名配置した。来庁者子育て支援コーナー・こども家庭相談については、専門の相談員による相談を行っている。保護者ニーズを把握したうえで、必要に応じて制度の紹介などを行っている。また、昨年度からヤングケアラーの支援に取り組んできている。ヤングケアラーについては把握しづらい側面があるので、情報共有のご協力をお願いしたい。
- ・ 保育支援課…要支援児童の受け入れ状況や要請訪問実績の件数は資料のとおりである。令和 4 年度の要請訪問は 4 歳児が最も多かった。就学に向けてのスムーズな移行のための「個別の移行支援計画」について、移行支援シートのサンプルを作成し所長会・園長会で示した。

<質疑応答>

委員：前回の会議でも話題にしたが、当事業所では、足掛け7年、欠員状態が続いている。去年の4月にはいったん職員数が揃ったが、5月には15年勤めた職員が急病で退職された。その方は指導員というだけでなく児童発達支援管理責任者（以下、児発管）だった。児発管が不在となると給付金が半額になる。各手当にも影響する。それで困っていたところに、もう1人の児発管も急病で昨年退職された。その方も10年ほど勤めておられた方だった。山城北保健所の担当者とも相談させていただいたが、とにかく探してくださいということだった。人探しと並行して、今来ている保育士2名に児発管の研修に行ってもらったが、児発管と名乗れるまでには実務経験がプラス2年間必要である。山城北保健所の担当者も親身になって相談にのってくださったが、ご存知なかったことがあったので情報共有させていただきたい。ご存知の方もおられるかも知れないが、急病によって児発管が退職した場合は1年間の猶予がもらえることになっている。これを、ほぼ1年経つころに知った。今も児発管の採用はかなっておらず、困った状態は続いている。

委員長：大変貴重な情報を共有していただいた。このような情報もこの会議で共有できるのは大変ありがたいと思う。

委員：うちもなんとかつないでいるところではあるが、先日児発管の届け出を提出したが、要件が足りないと返された。企業型保育では経験に該当しない、ということだった。審議後も認められないということだった。該当するかどうかの最終判断は京都府知事となっている。こういった対応で疲弊している。

事務局：事務局としても、人材が足りないという事態はなんとか解消したいと考えているが、今現在働いておられない方は子育て中であるなど働きにくい状況におられる方なのでご紹介できないことが多い。

委員：人材確保のために福祉人材フェアに出ているが、そこで学生向けにアピールすると良いといわれる内容が3つある。それは、時間の短さ、給料の高さ、休みが取りやすいこと、の3つと言われている。福祉の現場では、これは厳しいところがあるが、働き方改革と言われる時代に、こういうことをPRしないと人が集まらない。また、転職サイトもたくさんあり、転職することを当たり前で就職してくる学生も多い。合わなければ辞めたらいいや、というような軽い気持ちで就職されたりして、仕事のことがわかってくる前に辞めてしまうことが多い。

委員長：福祉だけでなくどの企業でも3年離職率の高さが問題になっている。実習先で就職が決まるパターンも多いように感じている。その場合は長く続いて働いているように思う。実習を受け入れることも体制を整える必要があるが、実習から人材確保につながると理想かと思う。

少子化の中で定員をどう設定するかなど、療育の安定的な運営のために市としてバックアップがないと長期的にみると厳しいのではないかと考えている。

委員：実習について、保育の実習が先にあって、そのあとに福祉の実習があったりするのですが、先に保育園で就職が決まってしまうことが多い。実習の時期をずらすことはできないか大学に依頼したことがある。

委員長：大学によっては時期を調整することは可能かと思うが、大学との連携が必要になってくると思う。

委員長：放課後等デイサービスの事業所一覧について、障害福祉課ではどの程度対応が可能なのだろうか。

委員：空き情報について、ホームページでの掲載を検討しているが、タイムリーな情報をあげることが難しいのではないかと、ということで事業所と調整中である。放課後等デイサービスの事業所一覧については障害福祉課の窓口にて希望の方があればお渡ししている。

委員：放課後等デイサービスについて、需要と供給のバランスはどのようになっているか。

委員：宇治市の需要がどれくらいか掴めてはいないが、事業所が増えた分だけ利用者数も増えているというところがあるので、まだまだ需要はあるのではないかと考えている。

委員長：資料の中に、療育に来られている保護者のなかで、療育の必要性が十分理解できていない場合があるとの記述があったがどうか。

委員：療育の必要性を保護者が十分理解されていない場合もあるので、発達相談などでそれぞれの保護者に合わせた丁寧な説明をしていただけたらと考えている。以前に比べてそういうケースは減ったと思っていたが、最近また増えているような印象がある。

委員：情報提供させていただきたいことがある。公立幼稚園に比べると私立幼稚園は要支援児の割合が少ないとはいえ、私立幼稚園においての受入数については偏りがあるように思っている。少子化なので子どもを受け入れたい状況であるが、要支援児が増えている状況で、手厚く対応はしようと努力されているが職員への負担が増えていることを悩まれている声を聞いている。公立幼稚園の受け入れ枠が減るといことが示されている中で、私立幼稚園へのひずみが出てしまうのではないかと心配している。

事務局：今いただいたご意見は近年よく聞かれる先生方の悩み事として承知している。乳幼児教育・保育支援センターの準備室として、園の種別を超えて、どういう悩みを先生方が抱えておられるのか、様々なご意見をいただきながらセンターの立ち上げ準備を進めたいと考えている。

(5) 今年度の活動計画

事務局より資料⑤について報告した。

資料⑤について質問等はなかった。

事務局：次回の会議は8月25日を予定しているので、ご出席いただくようお願いしたい。